

本実践(研究)のポイント(高校教育指導課指導主事 宮本 洋子)

本実践は、事例患者のその人らしさに着目させ、提示している情報以外に必要な情報は何かを思考させることで、情報収集を行う際には疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者の心理的・文化的・社会的側面に関して情報収集を行う必要性を理解できるように工夫された授業実践となっています。

また、看護師として医療チームの一員として活躍するために、チーム協働の視点からグループワークや他者の意見を共有することで、主体的かつ協働的に取り組ませるよう工夫がなされています。

1 はじめに

看護を行う場合は、看護の対象を全人的に把握する必要があることを踏まえ、生活者である人間を身体的・心理的・文化的・社会的側面をもつ統一体として理解する必要がある。そのため、人間に共通する特性である基本的欲求や成長・発達の過程について理解させるとともに、対象の個別的な病状や心理的・文化的・社会的な状態を把握して看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てることが必要である。

2 問題の所在

看護を行う上では看護の対象であるその人らしさを大切にしたい看護の関わりが重要である。そのため、看護が対象とする「生活」とは何を理解し、事例を通して看護の対象へその人らしさを大切にしたい看護援助を行うための看護の役割は何かを考えることで、臨地実習で情報収集を行う際には疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者の心理的・文化的・社会的側面に関してしっかりと情報収集を行う必要性を理解させる必要がある。これらの活動を通して、その人らしさを考えた看護を実施する実践能力を習得させたい。

3 具体的な取組み

- (1) 事例を提示し、事例患者のその人らしさを表している情報にラインを引かせ、なぜその部分がその人らしさを表しているのか理由と合わせて発表させることで、患者の状態を理解しやすくなるようにした。
- (2) 事例にある情報以外に、患者のその人らしさを大切にしたい看護援助を行うために必要な情報を個人で考えさせた。
- (3) 個人で考えた意見をグループで共有し、ジャムボードを使用しグループごとに意見を整理させた。
- (4) グループで考えた意見を全体で発表させ、全体での考えの共有を図り、他者の考えと自分の考えを合わせて考えることで、学びを深めさせ、自分の考えた内容も間違いではなく必要な情報であることを再認識させた。
- (5) 看護の対象のその人らしさを考えた看護について個人で考えさせ、発表させ全体での共有を図ることで、情報収集を行う際には疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者さんの心理的・文化的・社会的側面に関してしっかりと情報収集を行う必要性を再認識させた。

4 成果と課題

事例を通して、看護が対象とする「生活」とは何を理解し、看護の対象へその人らしさを大切にしたい看護援助を行うための看護の役割は何かを考えることで、臨地実習で情報収集を行う際には疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者の心理的・文化的・社会的側面に関してしっかりと情報収集を行う必要性を理解させることができた。個人ワークとグループワークを行い考えさせたことで生徒が主体的に学習に取り組むことができた。生徒の自己評価の項目で「その人らしさを大切にしたい看護援助を行うための情報収集の内容を考えることができた。」「自分の考えた情報収集の内容を理由と合わせてグループ内で発表することができた。」のどちらの項目も生徒全員がとても当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えている。また、学びとして「患者さんの今の状態だけでなく入院前や退院後の環境などについて4つの側面から情報収集をし、アセスメントすることで患者さんの個別性に合った援助を行い、患者さんがその人らしい生活をできるようにしたい。」「入院中の患者の状態だけでなく、入院前と入院後の生活の違いや今後の治療継続や退院などを考えるうえでの問題点を考えながら必要なケアをしていきたい。」等記述している。このことから、今回の学習目標を達成することができた。課題として、生徒が主体的で対話的な深い学びができるように、衛生看護科で学んできたベースを活かした事例作成や授業づくりを行っていく必要がある。また、思考する内容を焦点化していくことが、生徒の思考を深めることにつながると考えられるため、どの部分を学ばせたいのかを明確にした授業づくりを行い、生徒一人一人の実践能力の育成を図る必要がある。

5 おわりに

今回の授業を通して、患者の心理的・文化的・社会的側面に関してしっかりと情報収集を行うことで、患者のその人らしさを大切にしたい看護を実施する実践能力を習得することができた。また、発表や生徒同士で意見交換を行うことで他者の意見を尊重し自分の考えを伝える力を身に付けさせることができた。今後も、言語活動の充実を含め、患者の状況を正確に把握・判断し、根拠のある看護を実施できる看護実践能力の向上を図ることのできる授業づくりを行っていく必要がある。また、引き続き生徒が主体的に学んでいくことができるような授業づくりを心掛けていく。